

図書館史研究会 ニュース・レター

第23号 昭和61年9月20日

IFLA東京大会では「日本における図書館史研究の動向」という題目で、藤野幸雄（図書館情報大学）、石井 敦（東洋大学）、河井弘志（立教大学）、川崎良孝（椋山女学園大学）が共同発表し、河井が代表してドイツ語で口頭発表した。河井は我々の原稿がまとまった時点でドイツ語に翻訳し、P・カールシュテットに送付した。その返信が以下である。カールシュテット自身が手紙の末尾でしめしているように、この手紙をIFLAの会場で読み上げることも検討したが、時間がないので、希望者のみに配布するにとどめた。参考までにここに再録する。コメントは、主として方法論の部分に対して向けられているが、ニュース・レターでは「方法論」の部分は公表していない。（川崎）

カールシュテットのコメント（書簡）

〔前略〕

私の個人的著作に対して過分の褒め言葉を頂いて、光栄でもあり、嬉しくもあります。しかし、あなたがたに課せられたテーマに制約されて、あなたがたが歴史社会学〔の部分〕を参照するにとどめなければならなかったことがよくわかり、残念に思います。歴史社会学は私にとって、図書館社会学のほんの入口にすぎません。

ところで、特殊な社会階層形成体（Schichtbildungen）が、図書館の発生にかかわるファクターとしての役割を演ずることができるかどうか、〔できるとすれば〕どの程度まで演じうるのかという、あなたがたの質問ですが、率直に言ってこの質問は、私を驚嘆させ、魅了しました。御発見おめでとうございます。私がとりあげなかったこのテーマは、あなたがたの業績です。

たしかに私はこのテーマを見過ごしていました。それは、階層（Schicht）というものが、それ自体の組織（Organisation）を欠いているために、それ自身は、また直接的には、何ら図書館を設立することをしない、インフォーマルな集団形成体（informelle Gruppenbildungen）であるからです。しかし、だからといって、階層の内部に、階層特有の社会形象—政党、福祉団体、教育団体など—を発生せしめるような社会的濃縮（Soziale Verdichtungen）が行われなわけのものでもありません。これらの諸団体が、図書館設立のための社会的場となります。そして、当然のことながら、これらすべての図書館は、その階層に特有の精

神—つまり「イデオロギー」—を培養するでしょう。

とはいえ、「階層」という概念の適用には注意が必要です。ヨーロッパ中世の僧院図書館を、宗教家達の「層」の意思表示(Manifestationen)とみなそうとする人があるかもしれませんが、これはやはり大変な間違いでしょう。宗教家達は社会の確乎たる一部分ではありますが、層というよりもむしろ専門領域(Sektor)と呼ぶにふさわしいものの筈です。

しかし、このようにして一階層内に発生する図書館において、この階層に特有のイデオロギーがよみとれることは確かです。蔵書はこのイデオロギーの反復です。したがって、市民階級(ブルジョアジー)の私宅に設けられた書架は、殆ど同じ内容を持ち、同一の教育理念(Bildungsideal)の表明となっていると、理念的に明快に言うこともできます。

この教育理念が、民間に設立された公共図書館に魂を吹きこんだということは、明らかです。この教育理念は絶対に普遍妥当性をもつと考えられ、人々は経済的に劣った階層にこれを分与しようとしてきました。第3世代のハリスが考えたように、この理念には政治的な背後思想がむすびついてたという点は、いろんなところで事実であったかもしれませんが、一般的には殆ど採用できません。正しくいえば、下位階層がそれに特有のイデオロギーを発展させるのを妨げられ、かくて下位階層が上位階層によってイデオロギー的に制服されたということなのです。理由はどちらの階層においても同じです。つまり、教育理念の、階層に特有の相対的性格が正しく理解されなかったのです。

しかし、こうした事実があったとしても、つまり下位階層が上位階層の教育理念によって教化され、政治的に中性化されたとしても、こうした結果(Effekt)がそのまま図書館設立の動機(Motiv)や目的(Zweck)でもあったのだという、単純な短絡的結論を下すわけにはいきません。おそらく「結果」は、全くそれぞれの〔図書館〕設立者の意識の外で生じたのであって、彼らは自分の考えに従って、ただただ一般の〔ひとびとの〕福祉を考えていたのです。

これらすべては、慎重に考えてみるべき見解ですが、あなたがたの場合は安心です。ただ、公権力によって経営される、もはや民間的でない図書館においては、我々の現代イデオロギーが要請するように、社会におけるあらゆる階層や集団形成体が、それらに特有の文献を見出すことができるのだ、という点を指摘することを忘れないで下さい。予め共産主義を学ぶことをせずして、共産主義を排斥することはできないということを、私達は知っています。

あなたがたのラウンド・テーブル発表は、私がいなくても立派に行われるでしょ

う。もしよかったら、この手紙を読み上げて、私の発言として頂いても結構です。

敬 具

ペーター・カールシュテット

1986年6月10日 シュバルツバルトにて

原稿を募集します

「図書館史研究」第4号の原稿を募集します

テーマ：民主主義運動と図書館（日本の明治維新から現代まで）

民主主義運動が図書館運動にどのような影響を与えたか、あるいは、民主主義運動に対する弾圧が図書館運動にどのような影響を与えたかなど。

応 募：応募希望者は下記まで題目と要旨をそえて12月10日までに御連絡下さい。

東京都八王子市狭間町1994-463 是枝英子

注 意：最終的な完成原稿の提出期限は1987年3月末日、で400字詰の原稿用紙で50枚となります。

ふるって、御応募下さい。

* 来年のIFLA大会はイギリスのブライトンで開催されます。これにあわせて、イギリス図書館協会の図書館史グループとIFLA図書館史ラウンド・テーブルの共同企画で「古き図書館の旅」が、1987年8月12日から8月16日までもたれます。関心のある方は直接Paul Sturgesにお問い合わせください。以下、原文を載せておきます。

Tour of Historic Libraries. Organised by the Library History Group of the Library Association in association with the IFLA Round Table on Library History - Wed., 12th August 1987 until Sun. 16th August 1987.

The tour will begin at Heathrow Airport on the morning of the 12th and take in a number of provincial centres which provide fascinating examples of the whole range of historic libraries to be found in England. These will include academic, public, endowed, subscription, parochial, cathedral, private, and learned society libraries. Amongst the places to visit the cities of Manchester and Cambridge will be particularly important. The tour will terminate

in Brighton on the 16th. Accomodation for 4 nights will be in high quality modern and traditional hotels and transport will be by executive style coach. The Library History Group will provide a guide who will accompany the party throughout.

Cost: £200 per person sharing. £30 supplement for single room. This will cover bed, breakfast, evening meal, transport, and all incidental costs of visits. Enquires to : Paul Sturges, Department of Library and Information Studies, Loughborough Univ. of Technology, Loughborough, Leicestershire LE11 3TU, England. Telephone number-- (0509)223069

*1988年4月14~15日, ボルフエンビュッテル図書館(西独)が主催, ボルフエンビュッテル図書館史研究会, IFLA 図書館史ラウンド・テーブル協賛で, 国際シンポジウム「国際的文脈における図書館史研究」が開催されます。これは, 各国の図書館史研究会に呼び掛けたものです。当研究会の課題として検討していくこととなります。関心ある方は事務局まで御連絡下さい。

*第4回図書館史セミナーは9月14~15日の両日にわたり京都で開催した。参加者は47名であり, 非常に活発な討論が展開された。

*第18回運営委員回は9月14日, セミナーの会場であるトラベラーズ・イン(京都)で午後7時30分から9時30分まで開催した。出席は, 石井敦, 寺田光孝, 常盤繁油井澄子, 是枝英子, 森耕一, 山口源治郎, 阪田蓉子, 川崎良孝。『図書館史研究』(第4号)について検討し, テーマを「民主主義運動と図書館」にすることに決定した(前掲)。来年度の図書館史セミナーについては場所を関東と決定した。その他, IFLA図書館史ラウンド・テーブルの報告, 来年度のIFLAでの「見学旅行」(前掲), 1988年の図書館史国際会議などについて話あった。

*事務局より

9月14日現在の会費納入は, 会員の約80%弱となっています。会の運営に支障をきたしますので, 早急にお支払い下さい。

新入会員

(文責 川崎良孝)

第4回 図書館史を考えるセミナー

来る9月、京都で第4回の「図書館史を考えるセミナー」を下記の要領で開催します。多数の会員の参加をお待ちしております。

「近代化」とか「工業化」とかがそうであるように、図書館の発展も、国によって遅速の差があります。そして、後発の国は先進国から図書館の思想・技術を受け入れ、それを消化吸収しながら（時には不消化のまま）、その国独自の発展過程をたどることになります。今回は、五つの国について、英米その他の図書館先進国からどのように図書館思想（及び図書館技術）を受け入れ、それを基礎に各国の図書館がどのように発展してきているか、その間の状況を5人の方に発表していただき、参加者とともに研究討議したいと考えます。

テーマ 「図書館思想の受容」

日時 9月14日（日）午後1時から、15日（祝）午後4時まで

会場 京都市左京区岡崎成勝寺町91

トラベラーズ・イン（京都市美術館の南側、同封の図参照）

☎ (075) — 771 — 0225

参加費 2,500 円

懇親会 5,000 円

日程 9月14日（日）

受付 13時～

開会 13:30

発表(1) 戦後日本における公立図書館思想の受容 13:40～14:40

山口源治郎

休憩

発表(2) 解放後韓国における図書館思想の展開 15:00～16:00

宇治郷 毅

発表(3) 20世紀中国におけるアメリカ図書館学と 16:00～17:00

ソ連図書館学の相剋 石塚 栄二

懇親会 17:15～

日 程 9月15日(祝)

発表(4) 第一次大戦前後のフランスにおける 図書館学教育	赤星 隆子	9:15~10:15
休憩		
発表(5) ドイツ近代公立図書館思想の特質と 英米からの影響	河井 弘志	10:30~11:30
休憩		11:30~13:00
総括討論		13:00~16:00
閉 会		16:00

注意 論題については若干変化があるかもしれません。

申込 同封の振替用紙に所定の金額を記入のうえ申込ください。

参加費だけの場合 2,500 円

参加費と懇親会費の場合 7,500 円

また、参加申込の期限は8月20日です。

なお、宿泊につきましては、下記の要領で個人的に申し込んでください

1. トラベラーズ・インで宿泊できます。☎(075) —771 —0225
2. その場合の費用は、一泊 2,900円。洋室はツイン、和室は3～4名で、いずれもバス・トイレ付です。シングルはありません
3. 予約は各自電話で松崎課長に直接予約してください。その時、図書館史研究会会員であることを教えてください。
4. 期限は7月31日です

研究委員会 委員長 森 耕一

委 員 塩見昇、阪田蓉子、山口源治郎、川崎良孝